

**2009年度**

# 環境報告書



# 【 目 次 】

## 第1章 巻頭辞と概況

- (1) 巻頭辞----- P. 2
- (2) 基本的要件と事業の概況----- P. 3

## 第2章 環境方針・目標・実績等の総括

- (1) 医療生協さいたまの環境方針----- P. 6
- (2) 2009年度の目的・目標と実績等の総括----- P. 7
- (3) インプットとアウトプット----- P. 9

## 第3章 環境マネジメントの状況

- (1) 環境マネジメントシステムの状況----- P. 10
- (2) サプライチェーンマネジメントの状況----- P. 16
- (3) 情報開示と環境コミュニケーション----- P. 17
- (4) 環境法規制順守の取り組み----- P. 18
- (5) 緊急事態対応訓練の概要----- P. 19

## 第4章 環境活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取り組みの状況

- (1) エネルギー使用量の削減----- P. 20
- (2) 紙使用量の削減と再生紙の使用促進----- P. 24
- (3) 廃棄物の削減と適正な処理----- P. 28
- (4) 環境負荷を軽減する活動の促進----- P. 32
- (5) 環境に配慮したまちづくりに参加する----- P. 34
- (6) もっとも愚かな環境破壊である戦争につながる  
行為に反対し、平和を守る----- P. 37



# 第1章 巻頭辞と概況

## (1) 巻頭辞

### 生活を守り、生存していくことは環境を守ること

本年度は気候の異常がこれまでになく深刻に語られています。

一つは降雨量の偏在と時間的突然性です。里山を含む山間地での「土地変動」「山崩れ」「崖崩れ」ですし、これが無秩序な「乱開発」都市の中にもみられるようになってきています。本来吸水機能のある土地が固められた事でその機能が奪われ、一寸した雨量でも被害を及ぼすようになっていきます。日常生活にも深刻な影響を及ぼしています。美しい四季のある日本がその姿を変化させるかもしれません。

更に気温の異常さも気になります。今年の夏期は「熱中症」に代表される身体影響が大きくなっています。この「罹患数」と「死亡数」は昨年大騒ぎになった流行性感染症をもしのぎ、交通事故をも上回る事になりそうです。気温の上昇が地域・国の間でも偏りがあることが今後の取り組みでも注目すべき内容になるでしょう。地球全体の「恒常性」が失われ始めていることとなります。

私達を取り巻く経済環境も良くならない中で、生活環境悪化に歯止めがかかっていません。

本年度も私達は地道に環境改善の取り組みをしてきました。昨年評価された「エコキヤップ」の取り組みは、定着化し持続されています。地域の環境の指標になる酸化窒素の測定も粘り強く続けられています。例年定式化された「クールビズ」の提起もその実践が広がっています。これらによって二酸化炭素排出量への換算を行い、その規制と削減の具体的に見える数値として経年比較・指標が得られるようになりつつあります。これらを更に強め、自信をもって取り組めるようにしましょう。

私達の周囲でもまだまだ取り組める事は多くあると思っています。もっと「緑」を生活の中で育てて行くことも出来るでしょう。昨年取り組まれていた「グリーンカーテン」の取り組み拡大も、個人の住まいの中や周囲にも広げられると「環境問題に取り組んでいる」実感がつかめていくでしょう。身近で出来る、多くの取り組みを広げていきましょう。



2010年8月31日  
医療生協さいたま生活協同組合  
理事長 神谷 稔



## (2) 基本的要件 (対象組織・期間・分野) と事業の概況

### ① 基本的要件 (対象組織・期間・分野)

対象組織：医療生協さいたま全体

対象期間：2009年度 (2009年4月1日～2010年3月31日)

対象分野：医療生協さいたまの全事業 (保健医療事業、介護事業、配置薬事業、組合員対象サービス事業)

### ② 事業の概況 (2010年3月末現在)

名称：医療生協さいたま生活協同組合

本部所在地：川口市木曾呂1317番地

代表者：理事長 神谷 稔

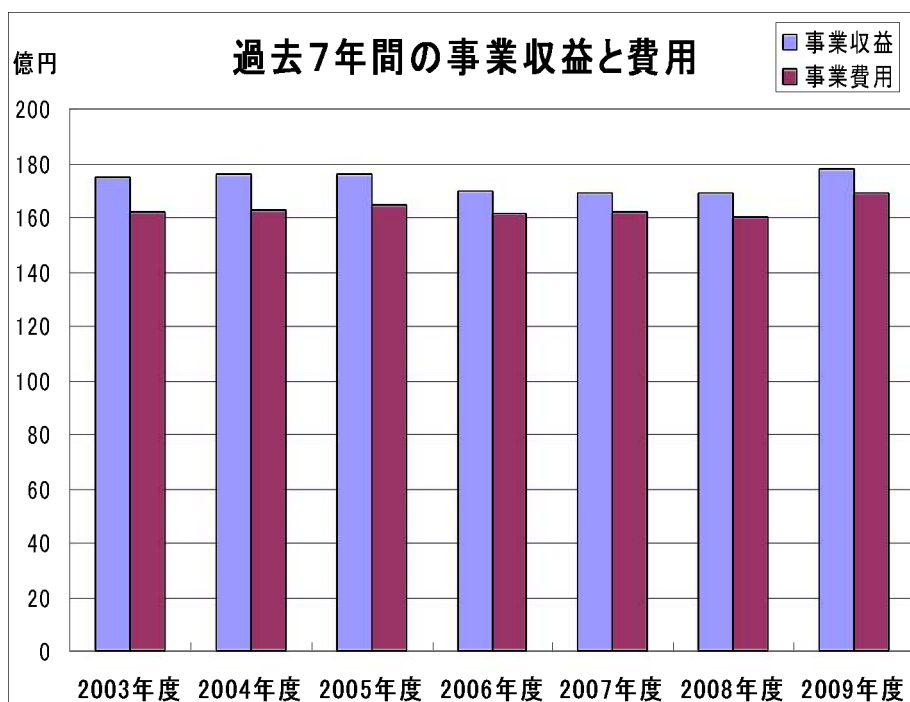
出資金：60億7千万円

事業収益：約178億円

職員数：常勤職員1,163人、非常勤職員719人 (常勤換算)

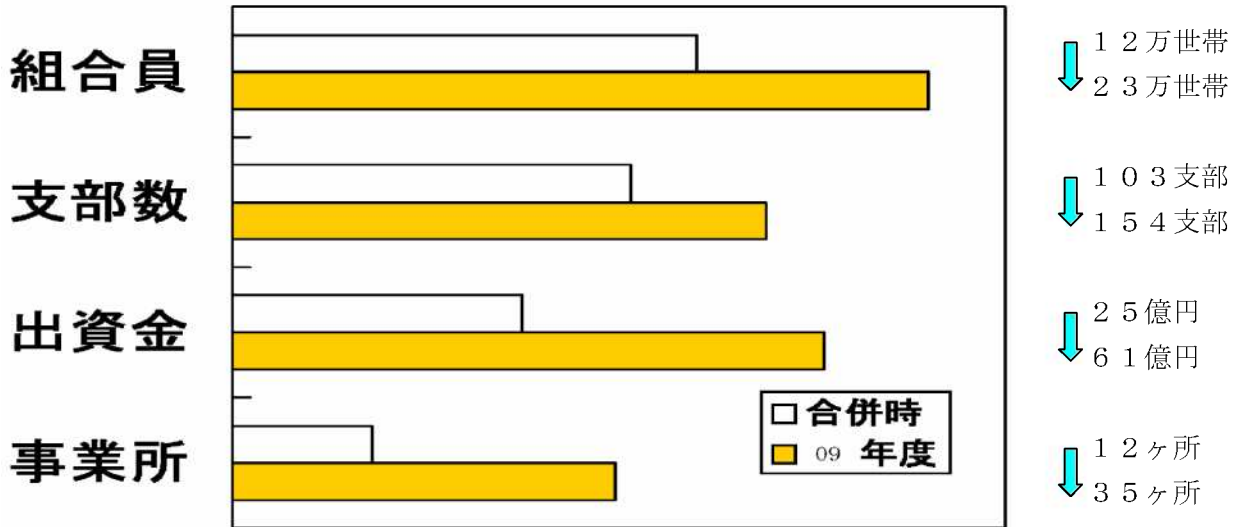
事業内容：保健・医療事業、介護事業、配置薬事業、組合員対象サービス事業

事業所：4病院 (一般病床536床、療養型病床95床)、9医科診療所、2歯科診療所、2老人保健施設 (入所定員200人)、18訪問系介護事業所、配置薬事業、本部

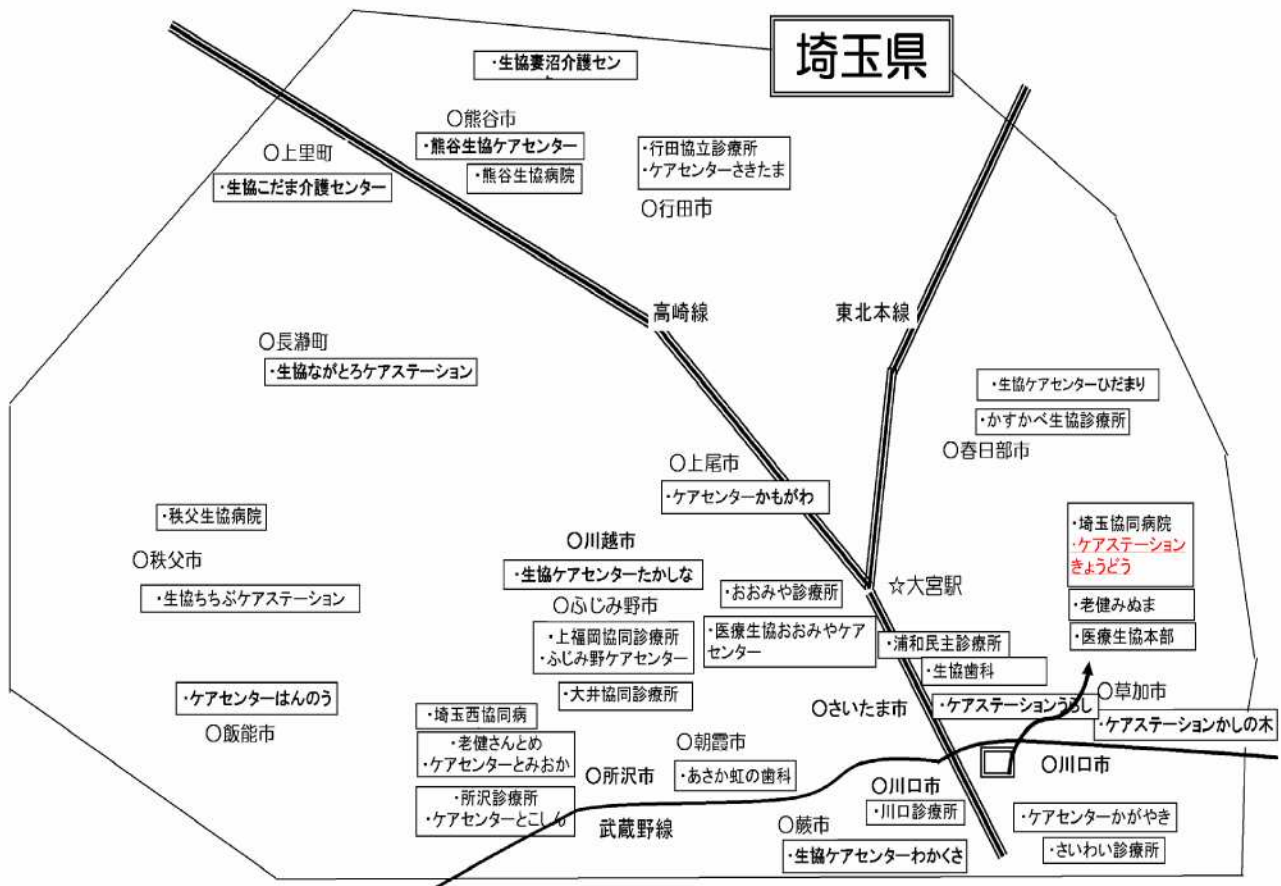


医療生協さいたまは、1992年に埼玉県内6つの医療生協が合併して誕生しました。その17年間の変化は、下図のように発展し、組合員数225,416人（埼玉県住民世帯比7.7%）、154支部、約3,075班を擁する日本最大の医療生協組織となっています。

医療生協合併時（1992年）から現在までの17年間の変化



③ 事業所の位置図



④ サイトにおける業務一覧

サイト No.	サイト名	各サイトの業務一覧			
		外来診療	病棟診療	その他	介護事業
1	埼玉協同病院	内科、消化器、循環器、呼吸器、小児科、外科、整形外科、皮膚科、脳神経科、産婦人科、麻酔科、放射線科、眼科、耳鼻科、精神科、リハビリ科、泌尿器科、神経内科	8病棟 401床	各種健康診断	訪問リハビリ
2	埼玉西協同病院	内科、外科、循環器科、眼科	1病棟50床	各種健康診断	通所リハビリ、訪問リハビリ
3	熊谷生協病院	内科、小児科、消化器科	2病棟 105床	各種健康診断	通所リハビリ、療養型病床、短期入所
4	秩父生協病院	内科、小児科、循環器科、消化器科、リハビリ理学療法科	2病棟 75床	各種健康診断	通所リハビリ、訪問リハ、療養型病床、短期入所
5	老人保健施設みぬま				入所、短期入所、通所リハビリ、訪問リハビリ
6	老人保健施設さんどめ(ケアセンターとみおか含む)				入所、短期入所、通所リハビリ、訪問リハビリ、居宅介護支援
7	川口診療所	内科、循環器科、消化器科		各種健康診断	通所リハビリ、訪問リハビリ
8	さいわい診療所	内科		各種健康診断	
9	浦和民主診療所	内科、循環器科、消化器科		各種健康診断	
10	おおみや診療所	内科		各種健康診断	
11	かずかべ生協診療所	内科		各種健康診断	通所リハビリ
12	大井協同診療所	内科、小児科		各種健康診断	通所介護、訪問リハビリ
13	上福岡協同診療所	内科		各種健康診断	訪問リハビリ
14	所沢診療所	内科、 <u>循環器内科</u>		各種健康診断	
15	行田協立診療所	内科、歯科		各種健康診断	通所介護
16	生協歯科	歯科、小児歯科、矯正歯科			
17	あさか虹の歯科	歯科、小児歯科、矯正歯科			
18	ケアステーションかしの木				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
19	ケアセンターきょうどう				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
20	ケアセンターかがやき				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援、通所介護
21	医療生協ケアセンターわかくさ				訪問介護、居宅介護支援
22	医療生協ケアセンターうらしん				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援、通所介護
23	ケアセンターかもがわ				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
24	医療生協おおみやケアセンター				訪問介護、居宅介護支援、通所介護
25	医療生協ケアセンターひだまり				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
26	生協ケアセンターたかしな				訪問介護、居宅介護支援
27	ケアセンターふじみ野				訪問介護、居宅介護支援
28	ケアセンターとこしん				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
29	ケアセンターはんのう				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
30	熊谷生協ケアセンター				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
31	生協妻沼介護センター				訪問介護
32	生協介護センターこだま				訪問介護、居宅介護支援
33	医療生協ケアセンターさきたま				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
34	生協ちちぶケアステーション				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
35	生協ながとろケアステーション				訪問介護
36	本部事務局			法人事務業務 組合員対象サービス	
37	配置薬センター			配置薬サービス	

## 第2章 環境方針・目標・実績等の総括

### (1) 医療生協さいたまの環境方針

#### ISO14001 環境方針

地球環境の保全と創造は、21世紀の人類共通の課題であり、私たちひとりひとり（組合員・職員）にとっても、事業者（医療生協さいたま）にとっても、避けて通れない課題となっています。

医療生協さいたまは、「健康なくらし、明るいまち、生きいき医療生協」をめざし、埼玉県全域で医療・介護のサービスを展開する事業者として、地球環境に配慮した活動を積極的にすすめます。

医療生協さいたまは、大規模な開発による環境破壊や排気ガスによる大気汚染、もっとも愚かな環境破壊である戦争行為に反対し、いのちと平和をまもり環境を保全する活動にとりくみます。

医療生協さいたまの職員は、毎日の仕事（事業活動・サービス）を通じて、環境の改善及び汚染予防、環境マネジメントの継続的向上をはかり、環境関連の法律や規制、協定を遵守します。

1. 医療生協さいたまは、環境保全、環境負荷軽減のために以下の事項に積極的に取り組みます。
  - ①電力等、エネルギー使用量を削減します。
  - ②紙使用量を削減するとともに、再生紙の使用を広げます。
  - ③医療材料等の使用にあたって、環境負荷の少ない製品を積極的に選択します。
  - ④廃棄物の適正な処理と削減をはかります。
  - ⑤エネルギー消費や自動車の使用に伴って発生する二酸化炭素、窒素酸化物の削減に取り組めます。
  - ⑥環境に配慮したまちづくりに参加します。
2. 医療生協さいたまは、各事業所及び生協本部において、環境目的と目標を設定し、環境マネジメントシステムを継続的に見直し、業務の改革につなげます。環境方針及び目標達成の課程と成果は全職員に周知します。
3. 医療生協さいたまは、この環境方針を、印刷物やホームページ等を通じて広く一般に公表します。

2004年9月1日  
医療生協さいたま生活協同組合  
理事長 神谷 稔



## ② 環境管理進捗表

### 【環境目的・目標達成度を示す情報】

パフォーマンス 2009 年度実績値（4～3月）	<p>電力使用量（2008 年度比）107.1%、ガス使用量（<math>\mu</math>）90.9%、水道使用量（<math>\mu</math>）98.4%、灯油（<math>\mu</math>）125.4%、ガソリン使用量（<math>\mu</math>）103.0%、紙（購入量）（<math>\mu</math>）103.8%、CO<sub>2</sub>排出量（<math>\mu</math>）99.8%となりました。</p> <p>CO<sub>2</sub> 排出量換算では 99.8%と前年を 0.2%下回りました。しかし、紙購入量では、103.8%で、前年度を 3.8%上回っています。</p>
事業所からの報告等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2009 年度の環境情報記録は 26 事業所から 485 件が寄せられましたが、昨年度は 645 件だったので、160 件ほど下回っています。</li> <li>・引き続き周辺美化・緑化、紙削減、ゴミの減量化・有効活用等に取り組む事業所が増えてきていて、これらの活動が定着してきています。</li> <li>・全県的にエコキャップ運動が推進され、今年度だけで、6,740,780 個のキャップが集められ、8,426 人分のポリオワクチンを提供したことになりました。</li> <li>・各事業所で平和・憲法の学習会や各種アピール行動の報告がきています。</li> <li>・緑のカーテンを育てている事業所が増えてきていますが、熊谷生協病院では、「みどりのカーテンコンクール」で市から表彰されました。</li> <li>・朝会や部会などで環境学習に取り組んでいる報告が寄せられてきています。</li> </ul>
その他の情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全事業所で環境側面（PFD）シートの見直しが実施されました。</li> <li>・2009 年 11 月の維持審査での指摘事項は 2 つでしたが、環境に関わるものはその内 1 つでした。</li> <li>・「環境活動月次報告」、「エコニュース」の発行を継続し、毎月出されています。</li> <li>・「2008 年度環境活動報告書」が作成され、配布されました。</li> <li>・第 7 回環境コンクールが CO<sub>2</sub> 削減をテーマに行われ、優秀事業所として、CC たかしなど生協ながとろCS が表彰されました。</li> </ul>

### 【評価、コメント】

<ol style="list-style-type: none"> <li>1、パフォーマンスは、項目別にみるとガスと水道以外は対前年比で上回りましたが、CO<sub>2</sub> 排出量換算では 99.8%と前年度を 0.2%下回りました。これからのCO<sub>2</sub>削減の取り組みがいっそう重要となっています。また、紙購入量では、103.8%で、前年を 3.8%上回って推移していて、対策が必要です。</li> <li>2、周辺美化活動や緑化推進、紙削減、ゴミ減量化・有効活用等への継続的な取組を行う事業所が増加し、環境活動が定着してきています。さらに全事業所へ普及進化していく必要があります。</li> <li>3、平和・憲法の学習会や各種のアピール行動が少なくない事業所で取り組まれてきていますが、その経験交流と全事業所でのさらなる発展が期待されます。</li> <li>4、全県的に「エコキャップ運動」に取り組む事業所が増加し、対前年度比で 3 倍近いエコキャップが収集されましたが、さらなる発展も視野に入れた検討が必要だと思われます。</li> <li>5、エコライフ Day 等へ取り組む事業所が増えてきていますが、電気ダイコンなど個人レベルでの環境活動への取り組みをさらに普及していく必要があると思われます。</li> <li>6、省エネ法の改正にあわせて、法人全体でCO<sub>2</sub>削減をするための中長期計画の策定に向けて、議論が進められました。今後、環境問題の学習・普及、具体的施策がいっそう重要になっています。</li> </ol>
--

### (3) インプットとアウトプット (2009年度)

#### <インプット> (著しい環境側面)

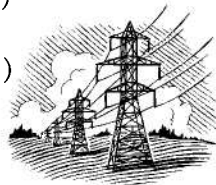
\*電気使用量 (10,124,533kw 時)

\*燃料使用量

都市ガス (1,038,851 立方m)

L P G (30,150 立方m)

灯油 (38,186L)



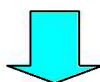
\*自動車用燃料使用量

ガソリン (244,204 L)

軽油 (1,391 L)

\*紙使用量 (13,249,000 枚)

\*医療材料、衛生材料の使用



#### \*保健医療サービス

●外来 ●入院 ●在宅 ●健診



#### \*介護サービス

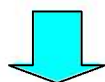
●訪問看護 ●訪問介護 ●居宅介護支援 ●通所リハビリテーション  
●通所介護 ●訪問リハビリテーション ●老人保健施設入所  
●療養型病床の入所 ●短期入所療養介護サービス



#### \*配置薬事業サービス

#### \*組合員対象サービス

●保健教室 ●くらしの学校 ●ヘルパー2級及び3級講座  
●健康機材販売サービス ●組合員情報紙「けんこうと平和」発行サービス



#### <アウトプット> (著しい環境側面)

\*感染性廃棄物 (378,226kg)

\*二酸化炭素排出 (6,380,414kg)

\*汚水、排水 (149,909 立方m)

\*廃現像液 (2,190 L)



#### (良い環境側面)

\*再生紙の使用

\*植木、植栽、観葉植物

\*リサイクル製品の利用



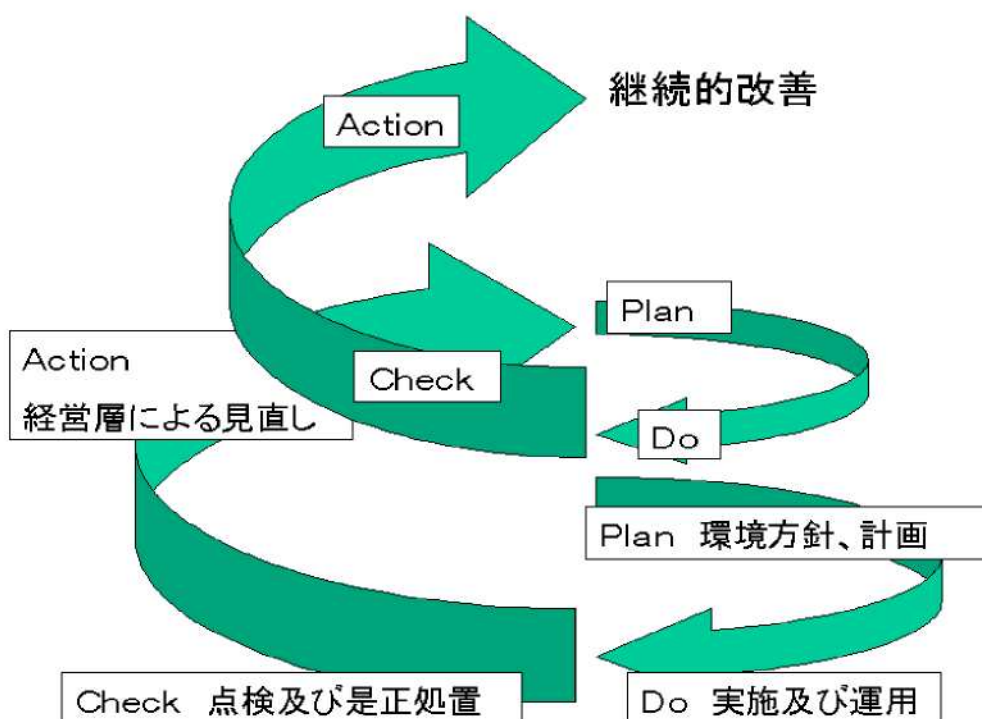
# 第3章 環境マネジメントシステム

## (1) 環境マネジメントシステムの状況

### ① 環境マネジメントシステムの概要

「環境マネジメントシステム」とは、組織の活動によって生じる環境への負荷を常に低減するよう配慮・改善するための「組織的なしくみ」のことをいいます。

組織が自ら環境方針および目的を定め、その実現のための計画（Plan）を立て、それを実施及び運用（Do）し、その結果を点検及び是正（Check）し、さらに次のステップを目指した見直し（Act）を行うというPDCAサイクルを確立していきます。それによって、環境マネジメントシステムを継続的に向上させ、環境に与える有害な負荷を減少させることをねらいとしています。



### <用語解説> ISO

ISOは、国際標準化機構 (International Organization for Standardization) の略称で、各国の代表的標準化機関から成る国際標準化機関です。「民間自身が民間のために民間規格を作る機関」として1947年に設立され、本部はスイスのジュネーブにあります。設立の目的は、「商品とサービスの国際的な交換を容易にし、知識・科学・技術・経済に関する活動において、国際的な交流を助長するため、国際的な規模の標準化とこれに関するさまざまな活動を発展・促進すること」とされています。

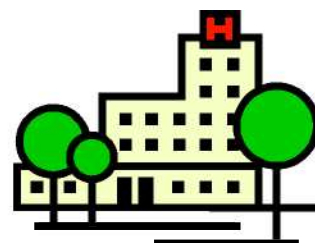
この標準化機構が定めたものに、「ISO14001」（環境保護に関する目標を決めて取り組むもの）、「ISO9001」（一定水準のサービスを提供するために業務基準を整備してとりくむもの）などがあり、国際的な統一規格となりつつあります。

## ② 第3者評価の取得

ISO14001とは、国際標準化機構（ISOと略する）が発行した、環境マネジメントシステムの国際規格です。

医療生協さいたまでは、環境問題は人類共通の課題、避けて通れない課題と考えてきました。また、医療・介護事業、健康づくりやまちづくりを担う我々にとっても避けて通れない課題です。そこで、毎日の仕事を通じて改善を続けていく環境保全の水準として、ISO14001を2002年11月に取得しました。それ以外にも第3者評価の導入を積極的に進めてきました。以下にその経過を記します。

- ・1998年2月 埼玉協同病院 病院機能評価認定
- ・2002年6月 埼玉協同病院 ISO9001認証
- ・2002年11月 医療生協さいたま ISO14001認証
- ・2003年11月 医療生協さいたま ISO9001認証
- ・2004年11月 埼玉協同病院 ISO9001、医療生協さいたま ISO9001、  
医療生協さいたま ISO14001の統合
- ・2005年7月 熊谷生協病院で病院機能評価認定
- ・2006年3月 医療生協さいたま全体でプライバシーマークの認定を取得
- ・2006年3月～5月 埼玉西協同病院、秩父生協病院で病院機能評価認定



### 環境問題とISO14001の認証取得について

2001年7月3日 本部役員会

#### 1. 環境問題とは何か

①環境問題とは、人間による生産・消費活動が引き起こす地球環境の破壊によって生ずる種々の問題である。大規模な健康影響のみならず、人類の生存そのものを危うくするものとして、21世紀の世界的課題の一つである。

②その主なものは以下のとおり

- ・大気、海洋、水の汚染（道路公害、化学汚染、核実験による汚染等々）
- ・大気中の二酸化炭素等の増加による地球温暖化。
- ・温暖化の結果としての氷河の後退、異常気象、海水面の上昇など
- ・フロンガスの放出によるオゾン層の破壊
- ・野生生物の減少等の生態系の破壊



③近年、環境問題は深刻さを増しており、1992年の「環境と開発に関する国連会議」以降、人間活動のあらゆる分野について、環境保全の観点が求められている。

#### 2. 医療生協の視点

①「自主的組合員活動と信頼される事業を通じてつくる健康な暮らし、明るいまち、生きいき医療生協」（第2次5か年計画メインテーマ）をかかげる医療生協にとっては、事業活動、組合員活動のいずれにおいても避けて通ることのできない課題である。

②国や大企業がすすめる大規模な開発による環境破壊や排気ガスによる大気汚染など、環境問題を社会的問題として捉えることは、重要なことである。二酸化窒素の測定活動、ゴミ問題での自治体への要請、など、これまでの活動をいっそう発展させる必要がある。

③同時に、環境問題とは、経済活動に携わる個々の事業者の課題であり、また、個々の働く人々や地域住民の課題であるとの認識も欠かすことができない。このような立場に立つてこそ、私たちは、主体的に環境問題に関わることができる。

#### 3. 具体的な取り組み課題としてのISO14001の認証取得（略）



## ④ 環境監査の概要

### 1) 外部監査

医療生協さいたまでは、審査登録機関による ISO14001 サーベランス審査を 6 ヶ月毎に受審してきました。しかし、2004 年 11 月の ISO9001 との統合に伴い、以後の審査は、ISO9001 との統合審査として実施されることになりました。

そして、2008 年度からは、それまでの年 2 回から、年 1 回の維持審査を実施することに変更しました。そのサーベランス・特別・統合・複合審査が、2009 年 11 月 19、20 日に実施されました。

【サーベランス・特別・統合・複合審査】 2009 年 11 月 19、20 日

経営者層、本部機能の審査以外に、埼玉協同病院、熊谷生協病院、老健みぬま、上福岡協同診療所、大井協同診療所、あさか虹の歯科、行田協立診療所、生協歯科、ふじみ野ケアセンター、ケアセンターさきたまに審査機関の審査員が出向いての現地審査が行われました。

その結果、高く評価できる点 13 件を受けたものの、2 件の不適合指摘と「品質」と「環境」併せて 23 件の観察事項がありました。

不適合の指摘があった内容は、行田協立診療所で、「実施した是正処置の有効性のレビューが不十分だった」点と法人全体で、「適正なロゴマークが使用されていなかった」点でした。それらに対して、ただちに是正処置を取りました。



### 2) 内部監査

内部監査は、年間計画に基づいて、環境マネジメントシステムの有効性の確認を行うもので、この結果はマネジメントレビューに反映され、継続的な改善が図られています。

医療生協さいたまでは、ISO14001「内部環境監査規程」に基づき内部環境監査を実施してきました。

その後、「品質」及び「個人情報保護」マネジメントシステムとの統合に伴い、「内部マネジメントシステム監査」として、年 2 回 6 月と 12 月に内部監査を実施しています。



#### 【6 月の内部監査】

この監査では、併せて 54 件の不適合と 282 件の観察事項が指摘されましたが、良い点は 229 件ありました。

その内、環境に関わる不適合は、5 件でした。

#### 【12 月の内部監査】

この監査では、併せて 45 件の不適合と 208 件の観察事項が指摘されましたが、良い点は 226 件ありました。

その内、環境に関わる不適合は、3 件でした。

## ⑤ 環境教育のとりくみ

医療生協さいたまでは、環境教育を一般教育、特別教育に分け、それぞれの対象者と教育内容を定め、事業所ごとに年間教育計画を作成して、実施してきました。

一般教育は、環境方針、環境目的・目標等の周知と環境に関する意識向上、緊急事態への対応などについて行いました。

特別教育は、著しい環境影響を生じる可能性のある作業に該当する作業手順書、及び該当する緊急事態への対応、不適合への対応、法規制についての周知について行いました。

新入職員に対しては、毎年4月の入職オリエンテーションの時期に、以下のようなパワーポイント教材を用いて、研修を行っています。

### 医療生協さいたま

## マネジメントシステムと私たちの仕事

マネジメントシステムと「第三者評価」

- ・ISO9001品質マネジメントシステム
- ・ISO14001環境マネジメントシステム
- ・個人情報保護マネジメントシステム

2010.4.2  
新入職員研修

医療生協さいたま 法人マネジメントシステム委員会

## マネジメントシステム

医療生協さいたまのマネジメントシステムは、第三者評価機関から認証(認定)を受けた3つの規格に適合したマネジメントシステムです

ISO9001:品質マネジメントシステム

ISO14001:環境マネジメントシステム

JISQ15001:個人情報保護マネジメントシステム

マネジメントシステムとは・・・組織の目標を達成するための仕事の仕組み、業務のやりかた

医療生協さいたまの  
マネジメントシステム

## ⑥ 環境コンクールのとりくみ

毎年、環境コンクールとして、その年度に環境活動で顕著な実績のあった事業所を表彰しています。

### \* 第1回環境コンクール――2003 年度

- ☆ベストパフォーマンス賞（賞品：液晶プロジェクター）
  - \* 埼玉西協同病院――対前年比 88.2%（CO<sub>2</sub>）、85.1%（紙）
- ☆ベストアイデア賞（賞品：スキャナ・コピー等複合機）
  - \* 埼玉協同病院「継続的周辺清掃活動が計 12 回」
- ☆情報記録最多賞（賞品：36mm テブラ）
  - \* 熊谷生協病院――85 通、1 人当たり 0.768 通、9 ヶ月送付
  - \* 秩父生協病院――74 通、1 人当たり 0.829 通、8 ヶ月送付



### \* 第2回環境コンクール（ペーパーレスコンクール）――2004 年度

- ☆ベストパフォーマンス賞（賞品：デジタルカメラ）  
「常勤換算職員一人当たり紙購入量を昨年度対比で最も削減させた事業所」
  - \* 病院・老健・本部の部――秩父生協病院
  - \* 診療所の部――所沢診療所
  - \* 介護事業所の部――CCとこしん
- ☆ベストアイデア賞（賞品：デジタルカメラ）
  - \* 熊谷生協病院「ISOXross に手順書を登録することで紙での全部門配付を行わず紙削減」



### \* 第3回環境コンクール――2005 年度

- ☆ベストパフォーマンス賞（賞品：デジタルカメラ）
  - \* 川口診療所――対前年比 88.9%（CO<sub>2</sub>）
- ☆ベストアイデア賞（賞品：自転車、テレビデオ）
  - \* 生協歯科診療所の「毎月委員会が担当しての環境活動」
  - \* ながとろヘルパーステーション「アイデア生かした環境活動」
- ☆CO<sub>2</sub>排出量記録賞（CO<sub>2</sub>レポート賞）（賞品：デジタルカメラ）
  - \* 埼玉協同病院――毎週定時の測定と統計資料の活用

### \* 第4回環境コンクール――2006 年度

- ☆ベストアイデア賞（賞品：自転車）
  - \* CCちちぶ「園芸部を作り、年間 100 鉢目標に育てて、所内を飾ると共に、育った鉢を利用者宅に無料配布したり健康祭りで販売」
- ☆継続活動賞（みんなで続けたで賞）（賞品：テレビデオ）
  - \* 老健さんとおめ「利用者・組合員・職員が協力して環境活動を推進」



### \* 第5回環境コンクール――2007 年度

- ☆地球にやさしかったで賞（賞品：マイ箸）
  - \* 熊谷生協病院「CO<sub>2</sub>排出量を対前年度比 94.1%に削減」
- ☆みんなで学んだで賞（賞品：デジタルカメラ）
  - \* CCさきたま「環境教育を事業所をあげて推進」
- ☆特別賞（賞品：デジタルカメラ）
  - \* 秩父生協病院「エコキャップ運動を事業所をあげて推進」

### \* 第6回環境コンクール――2008 年度

- ☆ベストパフォーマンス賞（賞品：マイ箸）
  - \* 埼玉協同病院「CO<sub>2</sub>排出量を対前年度比 95.1%に削減」
- ☆ベストアイデア賞（賞品：デジタルカメラ）
  - \* 秩父生協病院「環境活動を事業所をあげて推進」



### \* 第7回環境コンクール――2009 年度

- ☆ベストパフォーマンス賞（賞品：デジタルカメラ）
  - \* 生協CCたかしな「CO<sub>2</sub>排出量を対前年度比 77.7%に削減」
- ☆ベストアイデア賞（賞品：大型穴あけパンチ、中綴じホチキス）
  - \* ながとろヘルパーステーション「不要FAXを調査して削減した」

## (2) サプライチェーンマネジメント (SCM) の状況

### ① 環境に配慮したサプライチェーンマネジメントシステムの概要

医療生協さいたまでは、新規取引業者の評価および選定に対して、「環境対応」についてを評価項目に入れて選んでいます。

さらに、現在の取引業者についても1年に1回再評価をしていますが、その時の評価項目にも「環境対応」を加えて、実施しています。

また、施設の新築、改築、設備の更新に際しても、環境に対する配慮を大切にしている、工事の方法、設備の内容にも環境にやさしいものを追求しています。

#### <用語解説> サプライチェーンマネジメント (SCM)

サプライチェーンマネジメント (Supply Chain Management) は、供給連鎖管理とも訳され、一般的には、製造から販売までの工程における情報を、組織や企業をまたいで共有することによって、効率化とコスト削減などを推進する経営手法のこととされています。

ISO14001 では、2004年改訂版で「環境側面」の項で「組織が管理でき、かつ影響が及ぼすと思われる」と記載されていた部分が、「組織が管理できる側面及び影響を及ぼすことができる側面」という言葉に改訂され、直接管理できなくとも影響を及ぼすことができる管理側面がマネジメントの対象となることが明確化されました。これによって、従来規格ではあいまいであったサプライチェーンマネジメントを明確に要求するものになったと解されています。付属書で更に具体的な考慮事項が列挙されています。

具体的には、取引先に対して、事業活動における環境配慮の取組に関し、どのような要求や依頼をしているのか、それをどのようにマネジメントしているのかなどのことです。

### ② 環境に配慮したサプライチェーンマネジメントシステムの実績

#### 埼玉協同病院F館増築工事の環境への配慮事項

☆トイレ・階段の照明は、人感センサーを使用することで消し忘れを防止し、電気の無駄をなくしました。

☆トイレの水道はセンサーによる自動化によって、節水対応としました。

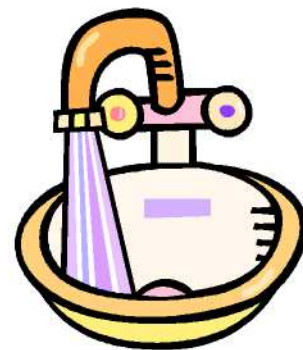
☆自然光をできるだけ取り入れるように採光窓を設け、明るくしました。

☆会館周辺に植栽をして、緑化を推進しました。

☆進相コンデンサの設置により無効電力を削減しました。

☆H f 蛍光灯の採用により高効率化しました。

☆高効率のヒートポンプを採用しました。



#### 取引業者の再評価における環境対応へのチェック

☆毎年度末に、事業所ごとに取引業者の再評価を実施していますが、すべての取引業者について、価格、納期、購買品の品質、個人情報保護体制とともに環境対応を項目に入れて再評価をしています。

☆その内容は、ISO14001を取得しているかどうか、または、包装の引き取りなどに応じているかを評価しています。

☆再評価の結果、不十分な場合には、取引引きを中止することもしています。





## (4) 環境法規制順守のとりくみ

### ① 環境法規の最新版管理

各事業所では、それぞれの自治体に対して、環境関係の条例についての聞き取りが進められ、その内容について、環境情報記録として事務局に送られてきます。

また、事務局では、「ISO14001 環境法規制ハンドブック」、「チェックリスト環境保全基準」、インターネット等から常に最新情報を入手するように務めています。

### 各事業所での環境関係の条例聞き取り事例

#### ☆秩父市役所にて確認 (秩父生協病院)

秩父生協病院では、秩父市環境農林部生活衛生課に対して、秩父市環境保全条例について聞き取りを行いました。その結果、2008年12月18日に「散骨行為について」改正がありました。

内容は、「墓地以外の場所で原則散骨してはいけない。」というもので、他は2008年度から変更ありませんでした。この結果を、朝会で報告しました。



### ② 環境法規等要求事項登録表の更新

2009年度は、関連する法規を調査した結果、下表の19法令について、対応すべき事項を明確にしました。

また、それ以外にも、各事業所から寄せられてきた、それぞれの自治体の環境関係の条例、業界団体等のガイドラインなど対応しなければならない要求事項を特定し、必要に応じて「環境法規等要求事項登録表」を更新しています。

### 環境法規等要求事項登録表に掲載している19法令

家電リサイクル法、建設資材リサイクル法、廃棄物処理法、PCB廃棄物処理特別措置法、地球温暖化対策推進法、省エネ法、フロン類回収破壊法、大気汚染防止法、自動車NO<sub>x</sub>・PM法、水質汚濁防止法、水道法、浄化槽法、消防法、高圧ガス保安法、労働安全衛生法、電気事業法、建築基準法、薬事法、医療法（施行規則第30条22）



### ③ 環境法規制順守評価

各事業所では、毎年10月に、「環境法規等要求事項登録表」に基づいて、環境法規制順守評価が行われています。

最新の環境法規等に基づいて、順守されているかを担当者が評価し、コンプライアンスに基づく、環境活動を推進しています。

## (5) 緊急事態対応訓練の概要

全事業所で「緊急事態の可能性リスト」を作成し、緊急事態に対応するため日頃からそれらに対する対応策を検討し、対応手順を明らかにすると共に、毎年緊急事態対応訓練を実施して、いざという時への備えをしています。

見直すべき内容としては、緊急連絡網のあり方、訓練の仕方（手順）など、見直しが必要であることを確認しました。今年度も特に、9月の防災週間にあたり、大規模災害時緊急連絡・所在確認訓練を提起し、各事業所毎に実施しました。その他にも、日頃から火災訓練や大規模災害（トリアージ）訓練等を行っています。

### <緊急事態対応訓練を実施した事例>

#### ☆埼玉協同病院（トリアージ訓練）

埼玉協同病院では、5月23日に集団災害を想定し、多数の負傷者が発生した場合のトリアージの実施と重症傷病者に対する適応医療機関への後方搬送訓練を行いました。

「当院の近隣で、観光バスを含めた自動車数台の多重衝突事故により多数の負傷者が発生し、災害現場にて現場トリアージが行われている。消防本部からの要請で、当院には軽症者を中心に相当数の負傷者が搬入されるため、災害体制を確立し、医療対応能力からトリアージを行う必要がある。軽症者の中に重傷者も含まれており、後方の高次医療機関への搬送が必要とされる。」という想定のもとに、実施しました。

訓練内容は、①災害対策本部設置訓練、②トリアージ訓練、③炊出し訓練でした。

#### ☆熊谷生協病院（緊急連絡網訓練）

熊谷生協病院では、10月31日（土）に、事業所全体での緊急連絡訓練を行いました。

訓練の結果は、土曜日ということもあり、各部門での勤務者が多く、訓練という訓練にならないような状況でした。

MS事務局会議でも振り返りを行い、緊急連絡網のあり方、訓練の仕方（手順）など、見直しが必要であることを確認しました。



#### ☆埼玉西協同病院（消防訓練）

埼玉西協同病院では、12月10日（木）13:15～14:00の日程で消防訓練を実施しました。夜間に火災が発生した場合を想定し、実践的な訓練としましたが、参加者数は21名でした。内容は、以下の通りです。

- 初期消火
- 通報
- 避難誘導（独歩患者・重症患者）
- 避難終了・安全確認
- 管理者へ連絡



見直すべき内容としては、重症患者の運び方・手順（点滴・モニター・呼吸器の外し方等）の確認が必要ということと、警報音で声が聞こえづらいので、大きな声で連絡を行う事が重要ということです。次回は消火器の使い方を予定しており、今後も訓練者をかえ訓練を行っていきます。

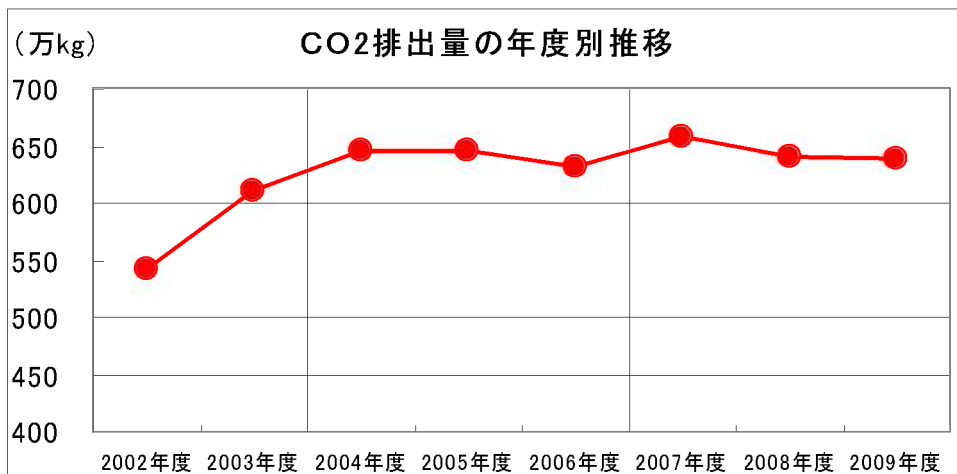
# 第4章 事業活動に伴う環境負荷

## 及びその低減に向けた取組の状況

### (1) エネルギー使用量の削減

#### ① パフォーマンス値の概要

##### 1) 2009年度の概要



2009年度のパフォーマンス値集計の結果、全体のCO<sub>2</sub>排出量は、対前年度累計比99.8%で、0.2%の減少となり、2004年度より低くなっています。

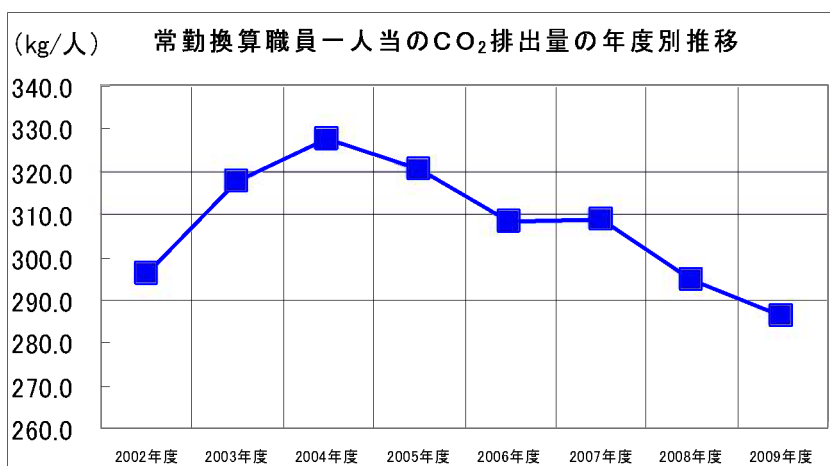
それぞれの使用量は、対前年度比では、左表のように、電気107.1%、ガス90.9%、水道

対前年度比	
CO <sub>2</sub>	99.8%
電気	107.1%
ガス	90.9%
水道	98.4%
灯油	125.4%
ガソリン・軽油	103.0%

98.4%、灯油125.4%、ガソリン・軽油103.0%となっていて、ガス、水道以外は増加していますが、CO<sub>2</sub>排出量は0.2%減少しました。これは、埼玉協同病院でF館を増築したものの、コ・ジェネの効率的運用等によって、低下したものと思われます。

また、埼玉協同病院や老人保健施設さんどめ、熊谷生協病院で井戸水を多く使用した影響もあって、水道の使用量が減少し、全体の水道使用量を押し下げる要因ともなりました。

##### 2) 常勤換算職員一人当のCO<sub>2</sub>排出量は、対前年度比97.1%と減少

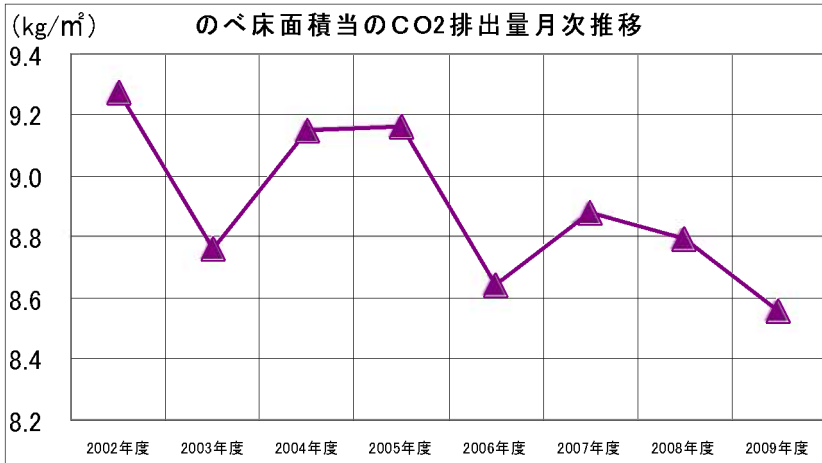


医療生協さいたまにおける常勤換算職員一人当のCO<sub>2</sub>排出量を見てみると、2008年度⇒2009年度が、97.1%と減少していて、計測を開始した2002年度より低くなっていることがわかります。

この5年間で、常勤換算職員数が年度平均で、2004年度1,641.8人⇒2009年度1,861.1人へと13.4%増加しています。

しかし、その割には、CO<sub>2</sub>排出量が抑制されていることがわかります。

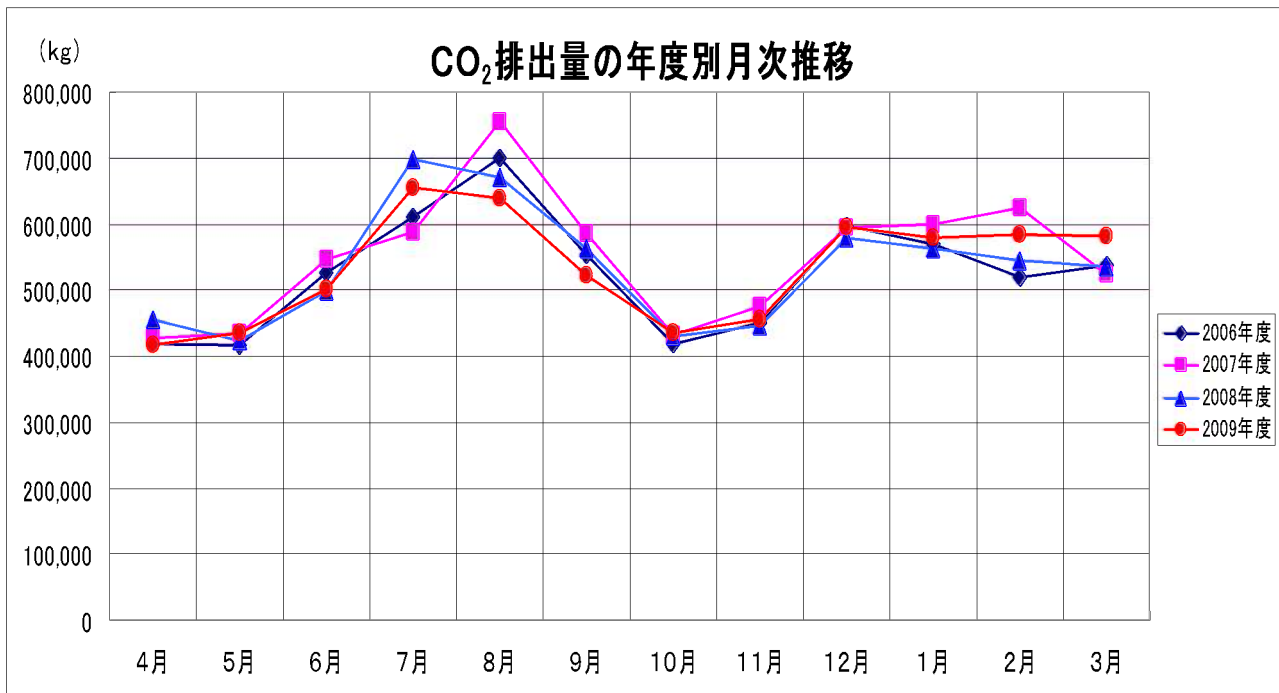
3) のべ床面積当のCO<sub>2</sub>排出量は、2002年度より減少



医療生協さいたまにおけるのべ床面積 (m<sup>2</sup>) 当のCO<sub>2</sub>排出量は、2008年度よりも2.3%減少し、8.6kg/m<sup>2</sup>となりましたが、測定を開始した2002年度よりは、7.5%減少しています。この間に埼玉協同病院でD館、F館を増築、浦和民主診療所、所沢診療所、生協歯科を新築移転するなど、規模が拡大していますが、それに比してCO<sub>2</sub>排出量

が抑制されてきていることがわかります。

4) 月次推移からは、夏期と冬期にCO<sub>2</sub>排出量増加



全体のCO<sub>2</sub>排出量の月次推移をしてみると、上図のように夏期と冬期の割合が高く、空調関係による影響が大きいものと考えられます。特に、2009年度は7月と8月の暑さはそれほどでもなかったことがわかります。

② エネルギー使用量の削減の取り組み

2009年度は、「CO<sub>2</sub>排出量を2008年度以下に削減する」ことを目標に電気、ガス使用量を前年度以下、ガソリン使用量を事業収益の伸び以下に抑える取り組みを進めてきました。

具体的には、「エネルギー使用量削減規程」に基づき、下表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。



エネルギー	運用基準
電気の使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節電ステッカーを貼る</li> <li>・空調温度設定の順守（夏 26℃、冬 22℃）</li> <li>・パソコンの終業時、不使用時の電源OFF</li> <li>・エレベーターの使用について、例外除き職員の使用禁止</li> </ul>
ガスの使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調温度設定の順守（夏 26℃、冬 22℃）</li> <li>・ガス器具の業務以外の使用制限</li> </ul>
ガソリンの使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行記録表による公用車使用状況の把握と点検</li> <li>・ガソリン購入量の請求書、伝票による把握と記録</li> <li>・「アイドリングストップ」のステッカーを貼る</li> <li>・短距離は自転車使用</li> </ul>

今年度も、夏期にCO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みをより徹底するために、下記のように全事業所で“クールビズ”を実施しました。

・全事業所で“クールビズ”を実施

全事業所で、7月1日～9月30日の期間“クールビズ”を実施しました。内容は、

- ① 夏期空調設定温度である 26℃を、当面 1℃高く 27℃に設定し、エネルギー削減効果を高める。
- ② ノーネクタイ、ノー上着などを含め、涼しく、効率的に仕事をすすめる服装を着用する。
- ③ とりくみの内容をポスター等で、職員・組合員・利用者の皆さんにアピールし、理解を得る。

以上で、職場毎に工夫して実施されました。

③ 取り組み事例

各事業所では、「エネルギー使用量削減規程」に基づいて、いろいろなアイデアを出し合って、取り組んできました。以下は、その事例です。

・「生協ちちぶケアステーション 今年もよしずを置き、暑さをしのぐ」

生協ちちぶケアステーションでは、急に暑くなったり、雨が降ってきたり、不安定な天気が続いています。

今年もよしずで「エコ！！」頑張ります。

5月は2回利用しました。秩父地方は冬寒く！夏暑い！・・・

暑さ、寒さに負けないよう頑張ろう！！



・「熊谷生協ケアセンター ゴーヤで緑のカーテンを作る」

熊谷生協ケアセンターでは、南側の窓外に、ゴーヤのカーテンを作り始めました。

スタッフが自宅で育てたゴーヤの苗をいくつかのプランターに植え、つるがネットをつたわるよう、何度もネットを調整しました。

緑のカーテンが完成する日を心待ちにしています。



・「本部総務部 グリーンIT対応のサーバーを導入しました」

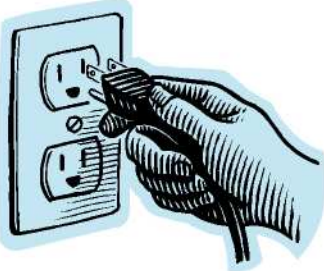
本部事務局では、グリーンIT対応のサーバーを導入しました。サーバー自体の消費電力が従来の65~70%ほどの消費電力で済み、さらに、サーバーの仮想化に対応しており、内部に4台分の仮想環境を構築できます。通常は4台の物理サーバーが必要なところを1台の物理サーバーで運用できます。従来のサーバー1台当り消費電力が400whだとすると、従来の構成では $400 \times 4 = 1600wh$ 、今回の構成では1台当り消費電力が70%下がっているとすると280whとなります。従来の17.5%の消費電力でサーバーの運用ができています。計算になりました。



・「秩父生協病院 自宅でも節電に努めています」

自宅でも以下のようにして、節電（電気代の節約）に努めています。

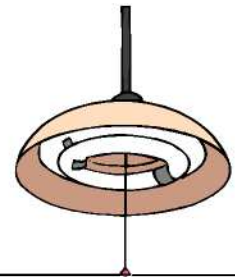
- ・今までは電気あんかや電気毛布を使用していましたが、お風呂のお湯をペットボトルに入れてあんか代わりに使用しています。電気代の節約につながっています。
- ・使用しない電気はこまめに消すようにしています。コンセントを抜いています。
- ・夜はテレビや室内灯をタイマーにして、消し忘れを防いでいます。



・「ケアセンターさきたま 小まめに照明を消しています」

ケアセンターさきたまでは、事業所の電気使用量を節約する為に、職員が不在の時や、少人数の場合など、照明を消しています。

照明器具は、窓側・中・廊下側に分けられていて、それぞれにスイッチが付いているので、小まめに、切り替えるようにして、節電に努力しています。

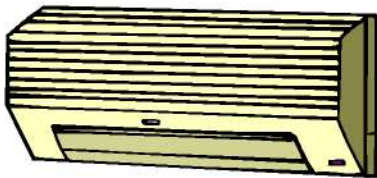


・「医療生協おおみやケアセンター 毎日温度測定をしてエアコン調節しています」

医療生協おおみやケアセンターでは、事務所内に温度計を取り付け、毎日10時と14時に温度測定をしています。

それにより、夏は寒くなり過ぎないように、冬は暑くなり過ぎないように、エアコンの調節をこまめにしています。

これによって、電気代の節約を目指しています。



・「本部けんこう文化部 電気ダイエットコンクールへの取り組み」

昨年の同時期に比べて、どれくらい電気の使用量を減らすことができたかを審査の基準にした埼玉県・CO<sub>2</sub>削減家庭の電気ダイエットコンクール実行委員会が主催し、埼玉県生活協同組合連合会や医療生協さいたまが共催した家庭の電気ダイエットコンクールに、医療生協さいたまから316家庭、816人が取り組みました。

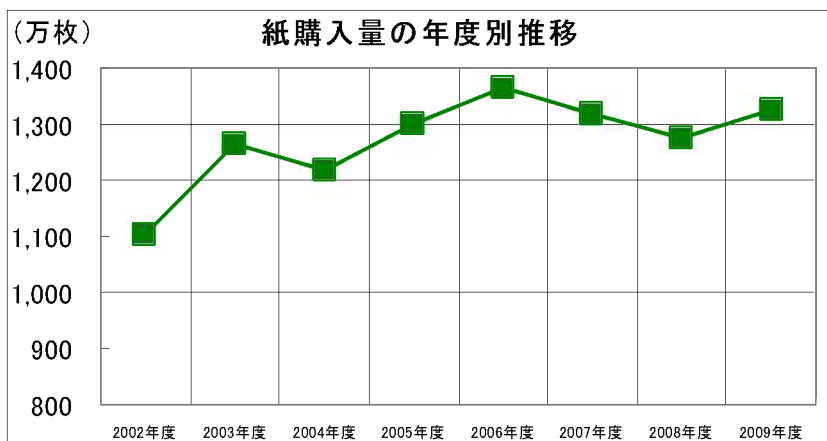
みんなで取り組むことでCO<sub>2</sub>排出量が減少し、地球温暖化防止に役立ちます。



## (2) 紙使用量の削減と再生紙の使用促進

### ① パフォーマンス値の概要

#### 1) 2009年度の概要



2009年度のパフォーマンス値の集計の結果、全体での紙購入量は、対前年度累計比で103.8%となり、3.8%前年度を上回り、大幅に増加しました。

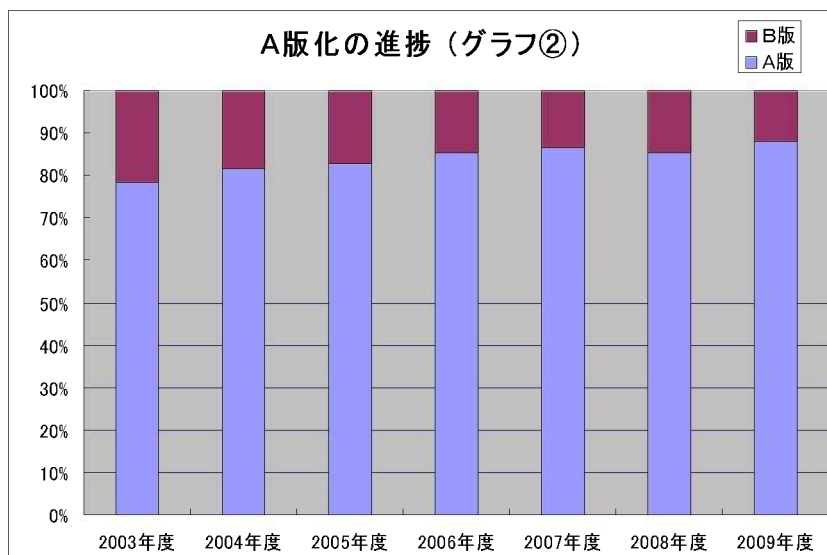
全体では年度で、13,249,000枚の紙を購入しましたが、前年度より482,500枚増加しています。年間購入枚数を面積にすると908,260㎡となり、東京ドームの19.4倍に相当します。また、

常勤換算職員一人当たりになると、年間紙購入量は約7,119枚で、1シメ500枚で数えると、一人約14シメになります。

今年度は、紙使用量をさらに削減させるため、マネジメントシステム委員会で紙の購入・使用について分析し、2009年度の紙使用量削減対策を提起しましたが、“昨年度の98%以下にする”という2009年度目標を達成することはできませんでした。

紙の購入量は、昨年度まで2年続けて減少していましたが、今年度は大幅に増加に転じることになりました。これは、電子カルテを導入した事業所で、紙使用量が増えていたものを各種の見直しによって抑制していたのが一段落したこと、各種のイベントや大型会議等での印刷物の増加が背景にあるものと思われます。今後いっそう、各事業所の実情に応じて、紙使用量の削減を進める必要があるものと考えられます。

#### 2) A版化の進捗

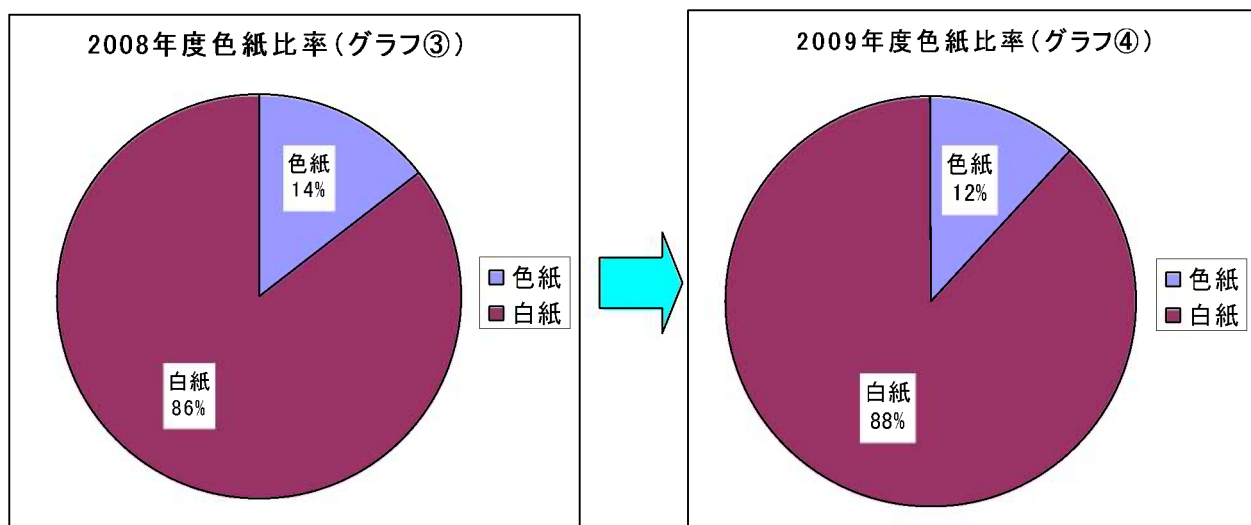


A4版化は、医療生協さいたま全体の方針として、この間推進してきました。その結果、左のグラフ②に見られるように、2003年度78.4%→2004年度81.5%→2005年度82.8%→2006年度85.2%→2007年度86.4%と着実に進んできていましたが、2008年度は85.4%とやや後退しましたものの、2009年度は88.0%と今までの最高に達しています。

埼玉協同病院、埼玉西協同病院、行田協立診療所、介護事業所等では、A4版化は9割以上に達していますが、まだ5割、6割水

準にとどまっているところも見られます。それらの事業所での用途は、色紙同様組合員向け支部ニュース等が主とのことですが、B4→A4により、パルプ使用量も減り、単価も半分近くへ減少するのでさらに推進する必要があると思われまます。

### 3) 色紙使用の適正化



私たちが使っている色紙は古紙配合70%以下で100%の再生紙ではなく、購入単価もA4白紙(古紙100%)とA4色紙(古紙70%薄口)を比較すると3.5倍、A4色紙(古紙70%中厚)と比較すると5.1倍と白紙の3～5倍もするのでほんとうに必要なものかの検討の上、削減をはかる必要があることを2006年度から提起してきました。

しかし、組合員や患者向け配布物に色紙が多く使われていて、減少しにくい現実がありましたが、秩父生協病院や熊谷生協病院、所沢診療所、行田協立診療所、老人保健施設みぬま、介護事業所等では、きちんと訴えて、徹底して管理したことなどにより、数%台まで減少させてきています。

それらによって、色紙比率は、2008年度14.4%(グラフ③)→2009年度12.0%(グラフ④)と減少してきていますが、2006年度には22.3%あったので、着実に減ってきています。

今後、組合員にもエコ推進と経費対策の両面から提起し、さらに白紙に切り替えていく必要があると思われまます。

### 4) 紙の購入・使用管理

紙の購入・使用管理対策も紙使用量削減の上で重要だと考え、以下の対策を提起して、進めてきました。

#### a) コピー機や印刷機の管理を徹底するため手順書等を見直す

- ・コピー機や印刷機の管理を徹底することは、紙削減のポイントの一つと思われまます。既存の手順書等があるところでは、管理の徹底と紙使用量の削減の視点で見直しを行うことを提起してきました。
- ・本部では、新ふれあい会館移転を契機に、複合機を新しくし、使用手順を変えて、ICカードで管理できるようにしました。これによって、個別の使用量が把握できるようになると共に、プリントアウト時も出力の選択が出来るようになり、間違ってプリントアウトの指示をした後でも、複合機側で取り消すことが出来るようになって、無駄な紙使用が減りました。



b) 会議時の紙使用量の設定や機関紙の効率的活用によって紙使用量を抑える

・各事業所や全体の会議毎に紙使用枚数を登録してもらうことにして、毎年度はじめにその見直しを行ってもらっています。これによって、会議時の紙配布枚数を抑制し、プロジェクター等の活用によって、ペーパーレス会議へのチャレンジもしてもらっています。



・医療生協さいたま全体や各事業所毎に、各種の機関紙等が発行されていますが、その配布が効率的に行われるように発行部数や配布先の登録をしてもらうことにして、毎年度はじめにその見直しを行ってもらっています。それによって、機関紙が余って、紙の無駄になることがないように管理しています。

5) 紙使用以外の伝達方法の追求

今年度も各事業所で、紙使用以外の伝達方法の追求がなされ、環境情報記録でもいくつか寄せられてきています。大きく分けると、以下の5点の取り組みが、追求されてきたものと思われま

- a) 電子メールを活用して、紙での郵送や FAX を減らす。
- b) 会議時にプロジェクター等を活用して、紙の配布物を減らす。
- c) ドキュワークス活用等によって、紙への印刷や紙での管理を減らす。
- d) FAX 送受信の見直しにより、紙使用量を減らす。
- e) ネット上の ISOXROSS の活用により、手順書等の紙配布を減らす。



今後も様々な工夫をすることによって、紙使用量の削減にチャレンジしていくことが必要だと考えられます。

② 紙使用量削減の取り組み

運用基準
・会議使用枚数の設定 ・機関紙、ニュースの効率的活用 ・紙購入量のチェック ・裏紙使用、両面使用の推進 ・メールの積極的活用、FAX 効率的活用 ・再生紙の使用促進

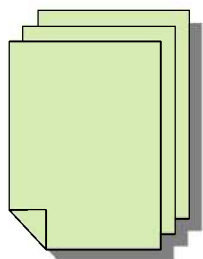
2009 年度は、前年度が 3.1%の減少となったのに引き続き、「紙使用量（購入枚数）を、2008 年度の 98%以下に削減し、色紙比率を落とす」ことを目標に取り組みを進め、全県会議でも紙使用量削減を強調してきましたが、目標は達成できませんでした。

具体的には、「紙使用量削減・再生紙の使用促進規程」に基づき、左表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

③ 取り組み事例

各事業所では、「紙使用量削減・再生紙の使用促進規程」を受けて、様々なアイデアを出し合っ

・「老人保健施設さんともめ 紙使用の管理について」



老健さんともめの 2009 年度の紙使用についての計画を報告します。

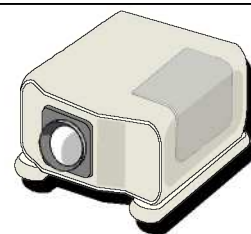
機関紙については、例年通り各支部ごとに必要部数を把握し発注・配布を行います。

会議での使用枚数については、管理会議・部門責任者会議では A3 用紙を使用し、紙の使用を制限します。月により資料提供等が違

### ・「川口診療所 会議紙資料枚数の設定」

川口診療所では、会議紙資料枚数設定について、2007年度11月より、スライド(PCにより)活用でペーパーレス会議に取り組んでいます。

2009年度は、去年同様1回会議につき1人5枚(10ページ)以内を目標にします。また、定例学習会資料も同様、ペーパーレスを目指します。



### ・「熊谷生協病院 院所ニュース発行計画と効率的活用の見直し」



熊谷生協病院では、院所ニュース発行計画と効率的活用の見直しを行いました。その結果、以下のような配布枚数にすることになりました。

院内配布用 300枚、協同病院へ 100枚、事務長会議へ 35枚、各支部へ 8,900枚  
毎月、配布者数の変更に合わせて印刷枚数の調整を実施しています。仕分け後残枚数については、院内総務へ設置し業者、訪問者へ配布しています。

### ・「生協妻紹介護センター 会議等の紙使用枚数の見直し」

生協妻紹介護センターでは、会議等の紙使用枚数の見直しを行い、以下のよう

に設定しました。

◎ヘルパー会議(月1回) ---レジュメ1枚、学習資料1枚、研修報告1枚

◎掲示用紙---1枚(連絡事項発生時ごと)

◎センター会議---居宅・訪問介護1枚ずつ

上記使用の半数は裏紙使用、両面コピーとします。



### ・「所沢診療所 紙削減対策実施中です」



所沢診療所では、紙削減対策実施中です！

今年度は部門ごとに1アクションプランを作成しました。

◇看護放射線検査部会「各種検査説明書の運用工夫で紙削減を」

◇事務薬剤師部会「裏紙活用の徹底強化をします」

◇事業所全体 目標：「環境に配慮した活動を実施します」

達成基準：紙購入量を昨年対比 98%

このとりくみの成果で、7/28の2009年度第1回マネジメントレビュー時点で、紙購入量昨年対比(4~6月累計比) 66%となりました！

### ・「本部事務局 県連事務部会をペーパーレス会議にする」

本部事務局では、毎月行われている県連事務部会の会議をペーパーレス会議に変えようがんばっています。

紙ベースでの報告を無くし、プロジェクターを使つての報告を行うようにしました。



### ・「ケアセンターさきたま 封筒の再利用」



ケアセンターさきたまの訪問看護では、現金でお支払いされている利用者様が数人います。その際、再利用の封筒をそのまま使用していますが、今回一

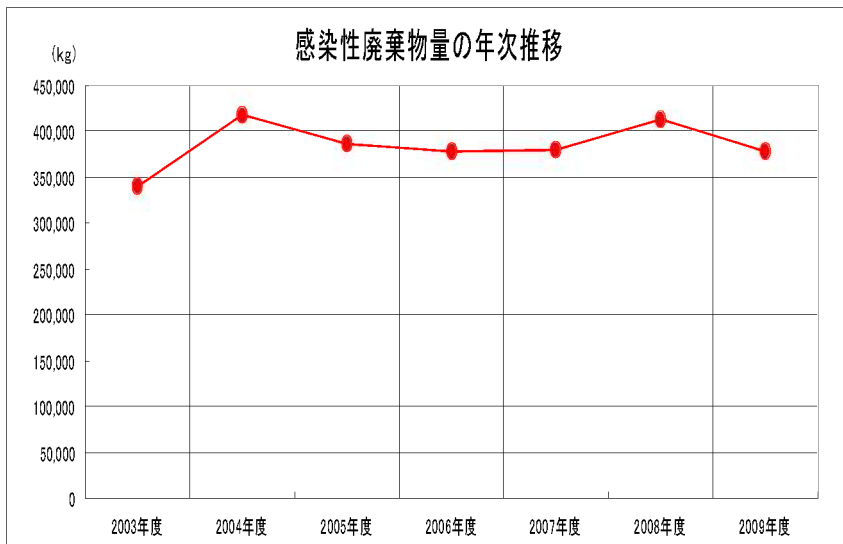
手間かけ、封筒を裏返してのり付けしてみました。

これからも工夫しながら、再利用を継続していきます。

### (3) 廃棄物の削減と適正な処理

#### ① パフォーマンス値の概要

##### 1) 感染性廃棄物のパフォーマンス値

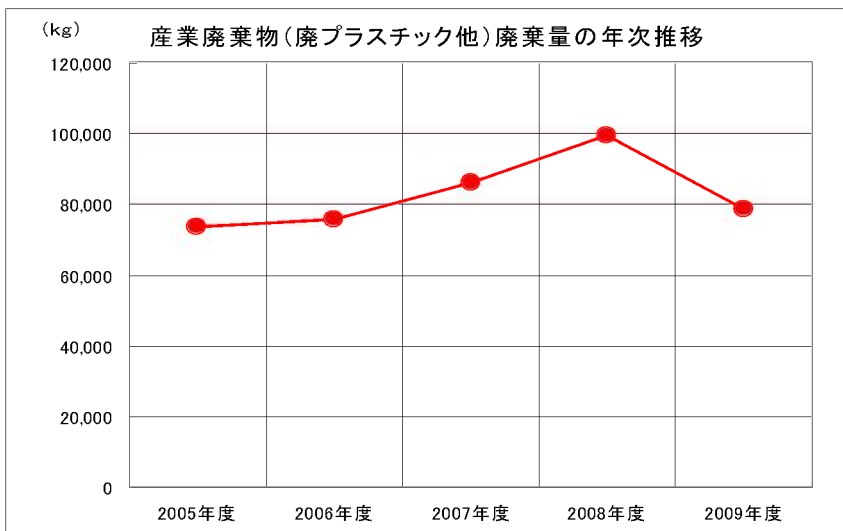


左図のように、全体での感染性廃棄物量は、2003年度⇒2004年度で122.5%と増加しましたが、本来一般の産業廃棄物としてもよい廃プラスチック類をより管理の厳しい感染性廃棄物として処理する事業所が増えたためでした。しかし、2004年度⇒2005年度では、92.6%と減少させ、2005年度⇒2006年度では、97.9%と2年続けての減少となりました。2006年度⇒2007年度では100.5%、2007

年度⇒2008年度では108.7%と2年続けての増加となりましたが、2008年度⇒2009年度では、91.6%と減少に転じました。

(尚、1 m<sup>3</sup>=300 kg、1 L=0.3 kgで換算)

##### 2) 産業廃棄物（廃プラスチック他）のパフォーマンス値



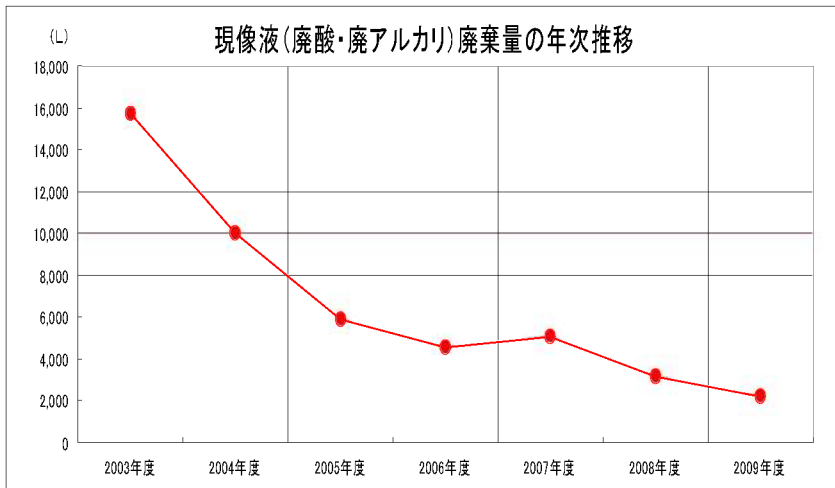
左図のように、全体での産業廃棄物量（廃プラスチック他）は、2005年度⇒2008年度では、102.6%、114.0%、115.5%と3年連続増えましたが、2008年度⇒2009年度は、79.2%と減少に転じています。本来一般の産業廃棄物としてもよい廃プラスチック類をより管理の厳しい感染性廃棄物として処理する事業所が6事業所あるので、感染性廃棄物と産業廃棄物の総重量を比較してみると2005年度⇒2008

年度では、98.7%、102.8%、110.0%と増加していましたが、2008年度⇒2009年度は、89.2%と減少に転じています。

(尚、1 m<sup>3</sup>=300 kg、1 L=0.3 kgで換算)

##### 3) 廃酸・廃アルカリのパフォーマンス値

次図のように、全体での、現像液（廃酸・廃アルカリ）廃棄量は、2003年度⇒2004年度で63.6%、2004年度⇒2005年度で58.7%、2005年度⇒2006年度で77.8%と3年続けて大きく減少しましたが、



2006 年度⇒2007 年度では、111.7%と増加しました。しかし、2007 年度⇒2008 年度で 61.8%、2008 年度⇒2009 年度で 69.5%と再び減少に転じ、2 年連続しています。これは、レントゲン撮影のデジタル化が順次進められ、フィルム現像液・定着液の使用が大きく減ってきているためです。2009 年度は、秩父生協病院と大井協同診療所でデジタル化されました。

## ② 廃棄物削減と適正な処理の概要

目標	運用と活動	運用基準
紙類の回収、再資源化の徹底	紙類の分別基準徹底	・紙類の分別と有効活用
感染性廃棄物を 2008 年度以下に削減する	マニフェストの交付	・マニフェストの交付と管理の徹底
	法に基づいた適正な運用	・法的手続きの適正化

2009 年度は、「紙類の回収、再資源化の徹底」、「感染性廃棄物を 2008 年度以下に削減する」の 2 つを目標に取り組みを進めてきました。

具体的には、「廃棄物管理規程」に基づき、上表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

また、医療廃棄物がどのように処理されているのかについて、現地に赴いて確認することも行って、適正な処理に努めています。

## ③ 取り組み事例

各事業所では、「廃棄物管理規程」に基づいて、いろいろなアイデアを出し合って、取り組んできました。以下は、その事例です。

### ・「秩父生協病院 プルタブを回収して車椅子に」

秩父生協病院の病棟では缶のプルタブを収集し車椅子をもらう活動を続けています。

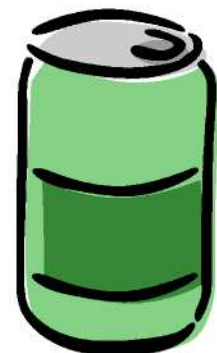
小さなプルタブをドラム缶 1 本貯めるのは大変な作業ですが、ずいぶん収集が進んできています。

収集の箱は【秩父市立病院】から透析に使われた透析液空きボトルを戴き使用しています。現在 4 ボトルがいっぱいとなっています。

看護長が先日、秩父市立病院院長から再び 4 本の空きボトルをもらってきてくれました。

ストックが切れたところだったので助かりました。

これからも各方面への訴えを広げ、一日も早く【エコ車椅子第 1 号】が病棟に姿を現してくれる日を楽しみにしています。



・「熊谷生協病院 ペットボトルをフラワーアレンジメントの花器にリサイクル」

熊谷生協病院では、2L用のペットボトルをフラワーアレンジメントの花器としてリサイクルして大変、喜ばれています。透明なので涼しく感じられ、自分たちも活けて楽しめるとのこと。

デイケアの利用者様が座るテーブルにお花を生けて楽しんでいます。



・「埼玉協同病院 牛乳パック・廃油リサイクルについて学習する」



埼玉協同病院の食養科では、牛乳パック・廃油のリサイクルについての学習を行いました。

今年度食養科で取り組んでいる牛乳パック及び廃油のリサイクルの環境に及ぼす効果について学習会を行い、職員22名が参加しました。

毎日の業務に付随するエコ活動の環境に及ぼす効果を学習し、より強い動機付けと継続の意義を考える機会となりました。

・「秩父生協病院 不用品のリサイクル利用を推進」

秩父生協病院では、不用品のリサイクル利用を進めています。

<レクリエーション>

輪投げ：ペットボトルに少量の水を入れて円の中心におき、得点を設定して行っています。新聞紙を棒状にして輪をつくり使用しています。

吹き矢：割り箸の袋の先端を三角形に折り、それを矢としてストローにかぶせ、ペットボトルの上に得点をはりつけた針金の輪を、ストローを吹いてとばした矢をくぐらせるゲームとして行っています。

ボーリングゲーム：ペットボトルをピンとして使用しています。

その他：ペットボトルに豆を入れて楽器として使用しています。

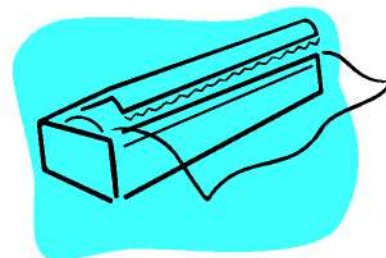
体操用具としてサランラップの芯を使用しています。

<行事>

おひなさま飾り：牛乳パックを段飾り用に作成しました。

食品用トレーに紙コップなどで作製しました。

ダンボールも使用しています。



・「ケアセンターさきたま シュレッダーの紙の再利用」



ケアセンターさきたまの事業所から出るシュレッダーで刻まれた紙を自宅で飼っているネコのトイレにしてみました。初めてだったのでネコも多少警戒していましたが、シュレッダーで刻まれた紙の上でちゃんとトイレできました。

大人のネコよりも子ネコの方が気に入ってトイレを使っています。

ただゴミとして捨てるよりも紙を無駄にせず再利用ができたので、今後も続けて行きたいと思います。

## 「各事業所でエコキャップ運動を推進しています」

医療生協さいたまの各事業所では、エコキャップ運動を事業所を挙げて推進するとともに地域にも広げてきています。

これは、エコキャップ推進協会で行っている事業で、ペットボトルのキャップを集めて、世界の子供たちにポリオワクチンを受けさせるというものです。

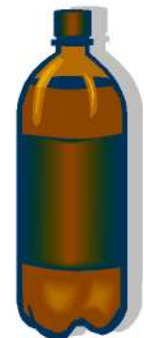
その内容は、キャップ 400 個 10 円で業者に引き取ってもらい、その利益でポリオワクチンを購入します。1 人分 20 円で接種することができるそうです。

また、業者に引き取られたペットボトルのキャップは、コンクリートパネルなどの製品に生まれ変わり、有効活用されるので、ゴミの削減、そしてCO<sub>2</sub>削減としても期待されています。

その結果、2010 年 3 月 31 日現在で、全体の累計では、23,907.8kg (約 9,563,100 個)のキャップを収集しました。これは、11,954 人分のポリオワクチンを提供出来たことになり、またCO<sub>2</sub>を 75,309kg 削減できたことに相当しました。

事業所別エコキャップ収集数一覧 (2010 年 3 月 31 日現在)

事業所名	収集数(個)	収集量(kg)	削減 CO <sub>2</sub> (kg)
埼玉協同病院	1,526,200	3,816	12,019
埼玉西協同病院	530,800	1,327	4,180
熊谷生協病院	1,601,640	4,004	12,613
秩父生協病院	2,379,120	5,973	18,736
浦和民主診療所	102,720	257	809
川口診療所	483,400	1,209	3,807
さいわい診療所	658,120	1,645	5,183
おおみや診療所	130,920	327	1,031
かすかべ生協診療所	181,540	454	1,430
所沢診療所	302,240	756	2,380
大井協同診療所	280,200	701	2,207
上福岡協同診療所	40,000	100	315
行田協立診療所	633,920	1,585	1,281
生協歯科	270,520	676	4,992
本部事務局	113,720	284	896
老人保健施設さんとも	243,160	608	1,915
介護事業所	84,880	212	668
合計	9,563,100	23,908	75,309



おおみやケアセンターで、去年 2008 年度から始めたエコキャップも、6 月 2 日現在 56,880 個。ポリオワクチンの数にすると、71 人分になりました。今では、ボランティアさんはじめ、組合員さん、そして賛同いただいた居宅支援事業所の方々が持ってきてくださるようになりました。

そこで、トイレトペーパーを注文した時のダンボール箱を利用して、エコキャップ回収箱を作って、ケアセンター1Fのエントランスに置きました。

今年は、おおみや診療所と一丸となって、より多くの方に広めて、集めたいと頑張っています。

## (4) 環境負荷を軽減する活動の促進

### ① 「環境負荷を軽減する活動促進」概要

2009年度は、「業務改善・工夫による資源（医療材料）の抑制」と「環境負荷の少ない製品の積極的選択」を目標に取り組みを進めてきました。

具体的には、「環境負荷軽減活動規程」に基づき、下表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

環境目標	運用と活動	運用基準
業務改善・工夫による資源（医療材料）の抑制	業務改善・工夫による資源（医療材料）抑制手順の研究	・業務手順の改善による推進
環境負荷の少ない製品の積極的選択	医療・衛生材料の対象品研究と採用	・調査研究と採用品の決定
	その他の対象品の採用拡大	・採用品目を増やす

### ② 取り組み事例

各事業所では、「環境負荷を軽減する活動促進」について、いろいろなアイデアを出し合って、取り組んできました。以下は、その事例です。

#### ・「生協ながとろケアステーション 不要なFAXを調べて削減する」

生協ながとろケアステーションでは、7月20日～8月19日までの1ヶ月間、業者などから一方的に配信されるFAXの内、不要なものを抜き出して、数えてみました。

そして、連絡すればとめられる所は都度、配信停止の依頼を連絡し、件数の多い業者には、こちらから配信停止の連絡をしました。これにより、紙の削減につながるものと期待しています。

① 連絡による配信停止対応の業者： 7件（連絡済）

② 対応ない業者： 30件

③ ②のうち特に数の多い2業者については、配信停止依頼

その後、8月20日～9月28日に検証のため集計しましたが、以下のよう大幅に削減できていました。

	前回	今回
①総件数	37件	11件（▼26件）
②前回特に数の多かった2業者	18件	0件（配信なし）

また、今回の配信停止対応業者4社についても、不要連絡しました。



#### ・「秩父生協病院 洗濯物干しを改善」

秩父生協病院の通所では毎日入浴介助後のスタッフの洋服や食事用エプロンなどたくさんの洗濯物が出ます。つつい便利乾燥機に頼りがちでしたが…。乾燥している冬の時期は、あえて室内干しをして部屋の加湿に一役買ってもらいました。

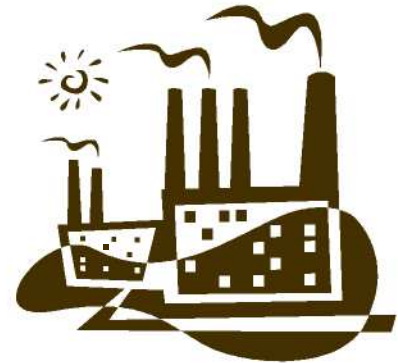


乾燥が一段した現在、天気の良い日には、乾燥機を使用しないで外に干しています。

エコにもなりますし、乾燥機で乾かすよりお日様に乾かしてもらった方が消毒にもなって気持ちいいですよ。

・「埼玉協同病院 煤塵の発生を少なくし、測定回数を減らす」

大気汚染防止法で指定される埼玉協同病院の煙発生施設は、ボイラー4基とコージェネシステムの発電機2基の6施設(設備)です。測定を義務づけられている大気汚染物質と測定回数は、窒素酸化物を年に2回、煤塵は5年に1回となっていますが、当院はこれまでに煤塵も窒素酸化物とセットで年2回測定してきました。しかし、2005年からは設備のすべての燃料をガス化したため煤塵の発生は極めてすくなく、2007年からの3年間の最大値でも0.0006g/m<sup>3</sup>Nで基準値0.1g/m<sup>3</sup>Nの1%以下となっています。年2回測定の積極的な意義は見出せません。したがって次回の煤塵測定は5年後とし、あわせて測定の委託経費を節減させることとしました。



・「熊谷生協病院 メラミン食器のリサイクル方法」

熊谷生協病院で使用しているメラミン食器のリサイクル方法がわかりました。

当院で使用している、食器の種類は大まかにメラミン食器、強化磁器、ポリカーボネートの3種類に分けられ、プラスチック系のメラミン食器、ポリカーボネート食器の2つがリサイクルになる方法がありました。

傷んだり、ヒビが入って破損したメラミン食器は、細かく粉砕をし、飛行機の機体にペイントされた絵(ANAのピカチュウの絵など)を落とす際の研磨剤として使われます。その他に、メラミンは熱をかけると固まる性質を利用し、横断歩道などの白線に混ぜられ使われるそうです。

マグカップで使用しているポリカーボネートの材質は、粉砕してから、電車のつり革やプラスチックベンチ、道路のステップ板などに再形成されるそうです。

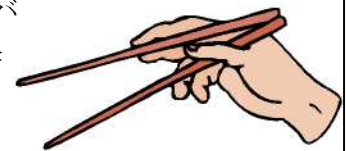
現在、マグカップのヒビや破損のチェックをした廃棄食器をストックしておき、まとまったら業者に引き渡して再利用に使ってもらうようにします。



・「老人保健施設みぬま マイ箸・マイ弁当・マイバック持参率を調べる」

老人保健施設みぬまでは、6月から部門内のマイ箸・マイ弁当・マイバック持参率を2ヶ月に1回調べています。調べ始めた当初より30%持参率が上がっています。

徐々に広がってきているものと思われます。



・「ケアセンターさきたま いらない炊飯器の活用」

ケアセンターさきたまでは、いらない炊飯器に濡らしたタオルを入れ、保温して蒸したタオルを作っています。



電子レンジでの蒸したタオルでは、なかなか温度調節が難しく熱過ぎたり冷まし過ぎてしまったりと手間がかかりすぐに使用できません。炊飯器に入れた蒸したタオルだと、すぐに使用出来るので、とても便利です。

清拭用のタオル、お尻を拭く使い捨てのウエスなどを入れて活用しています。

## (5) 環境に配慮したまちづくりに参加する

### ① 「環境に配慮したまちづくりに参加する」概要

2009年度は、「NO<sub>2</sub>の測定を広げるなど、組合員と協同して、健康にくらせる環境づくりに取り組む」、「周辺の環境整備や緑化の推進に取り組む」、「エコキャップ、マイカップ運動などエコ活動を普及する」ことを目標に活動を進めてきました。

具体的には、「環境に配慮したまちづくりに参加する活動規程」に基づき、下表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

環境目標	運用と活動	運用基準
NO <sub>2</sub> の測定を広げるなど、組合員と共に健康にくらせる環境づくりに取り組みます	NO <sub>2</sub> の測定を広げる	・計画的に NO <sub>2</sub> の測定者を広げていく
	環境をテーマとしたイベント開催（地区毎）	・各種行事や健康まつり等において、環境に関わるイベントの実施
	環境に関する学習、啓蒙活動の推進	・各事業所は環境に関する学習会を年1回以上開催
周辺の環境整備や緑化の推進に取り組めます	植栽や観葉植物の設置	・設置場所の決定と、担当者配置などの措置 ・事業所周辺の環境保全と緑化に役立つ計画を立てて、実行
	自治体、地域の環境に関する事業、企画に積極的に参加する	・関連する自治体、地域の環境に関する事業、企画に積極的に参加する
エコキャップ、マイカップ運動などエコ活動を普及します	エコキャップ運動を全事業所で推進する	・全事業所でエコキャップ運動を進め、昨年以上収集する
	マイカップ、マイ箸、マイバックにも取り組む	・マイカップ、マイ箸、マイバックに取り組む職員、組合員を増やす

### ② 取り組み事例

各事業所では、「環境に配慮したまちづくりに参加する」活動について、いろいろなアイデアを出し合って、取り組んできました。以下は、その事例です。

#### ・「生協ながとろケアステーション “ごみゼロの日”に参加しました」

5月の最終日曜日31日は、生協ながとろケアステーションの事務所のある野上地区恒例の“ごみゼロの日”でした。

当事業所からも職員がたくさん参加し、地域の方々と一緒にゴミ拾いや植え込みの草むしりを行いました。

前日からの雨模様で今にも降りそうな天気ながら、どうにか降られないで行えました。

地域の方々と一緒に道路の植え込みの草むしりや、ゴミ拾いができました。



・「本部事務局 通船堀の清掃活動をしました」

本部事務局では、3月30日〈火〉14時～15時、本部MS事務局・エコリーダー会議が提唱して、今年度3回目となる通船堀周辺のゴミ拾いを行ないました。

参加者は、全体で6名で、軍手や紙挟みで、通船堀や芝川の土手を歩きながらゴミを拾っていきました。

1時間弱の行動で、空き瓶、吸い殻、ペットボトル、空き缶、弁当のトレーなどゴミ袋5袋が一杯になりました。

当日は、良い天気で桜も咲いていて、気持ちのいい清掃活動となりました。



・「熊谷生協病院 熊谷市みどりのカーテンコンテストの優秀賞に輝く」

熊谷生協病院では、9月30日みどりのカーテンコンテストで熊谷市役所から優秀賞を頂きました。目にやさしくこころの癒しや冷房費削減、CO<sub>2</sub>削減に役立てました。



植物はふうせんかずら、ゴーヤ、朝顔などで柔らかい緑色、葉っぱが風にゆれ、見て楽しめます。

ふうせんかずらの種のおもしろさ、ゴーヤの実の出来るのがたのしみ、昔からあり、みんなが知っている朝顔、身近な植物で手入れが簡単、虫がつきにくいなどを考慮しました。

真夏の診察をおえホッとしてみどりのカーテンに見入る方を何人も見受けました。

病院として病気の体と心の緑の葉として役に立ったと思われまます。

・「生協ちちぶケアステーション 環境目標『花の苗を育てて 50 事業所に配る』達成」

生協ちちぶケアステーションでは、今年度環境目標の「花の苗を育てて 50 事業所に配る」を3月に達成しました。

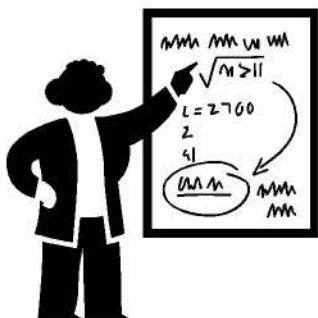
昨年春から「キンギョソウ」「夏スマレ」「パンジー」「ネモフェア」と季節ごとに種まきし、みんなの協力で達成することができました。

春本番大きく育ててほしいと願っています。



・「ケアセンターさきたま 環境問題について学習する」

ケアセンターさきたまの10月の学習会で「環境問題」について、市役所の環境課の方をお呼びしました。行田市のゴミの現状やゴミの排出抑制についてなど、身近な点から分かりやすいお話でした。なかでもゴミの排出抑制について4R（リデュース・リユース・リフューズ・リサイクル）



を詳しく説明頂きました。最近では、マイバッグの利用などでリフューズの点も活動が活性化されているようです。

日々出しているゴミですが、意外と分別方法が理解できておらず「ゴミの出し方で迷う物一覧」を使用し、分別方法がひと目で分かるようになりました。

4Rを気にしながら、ゴミの出し方等もしっかり守って環境問題を少しでも解決できるよう努力していきたいと思ひます。

## 「二酸化窒素の測定」実施 ～組合員との協同で環境守る活動推進

「埼玉の空をきれいにする会」に加盟する「埼玉県生活協同組合連合会」の一員として、医療生協さいたまも毎年6月と12月の年2回二酸化窒素濃度測定に取り組んでいます。測定数を昨年同月と比較すると、6月は57.6%、12月は51.2%と共に減少しています。



### <2009年二酸化窒素測定の結果>

6月測定は測定登録箇所のうち、1,655ヶ所での測定結果を分析し、単純平均は37.3ppbになりました。昨年同期（2008年6月）の平均は38.5ppbだったので、昨年よりは低い数値になりました。

また、12月測定は測定登録箇所のうち、1,402ヶ所での測定結果を分析し、単純平均は32.4ppbになりました。昨年同期（2008年12月）の平均は49.9ppbだったので、昨年よりは低い数値になりました。

二酸化窒素の環境基準（1978年に基準改定）

		6月測定数		12月測定数	
・60ppb(0.06ppm)超	…環境基準を超える (かなり汚れている)	159	10%	66	5%
・40ppb超 60ppb未満	…ゾーン基準内 (汚れている)	423	26%	252	18%
・20ppb超 40ppb未満	…基準以下 (まあまあ)	921	56%	898	64%
・20ppb以下	…旧基準内 (きれい)	152	9%	186	13%
		1,655		1,402	

#### ◆ppm (パートパーミリオン)

100万分の1を表す単位で、大気汚染の汚染物質の濃度を表す単位として使われます。例えば、大気中二酸化窒素1ppmとは、1立方mの大気中に1立方cmの二酸化窒素が含まれていることとなります。

#### ◆ppb (パートパービリオン)

10億分の1を表す単位で、1ppmは1ppbの1000倍にあたります。

1ppb=0.001ppm=10億分の1=0.0000001%



### <2009年12月二酸化窒素測定値ワースト9>

順	ppb	市町村	院所	支部	測定地点住所
1	87	伊奈町	おおみや	伊奈	県道から入った新しい道路
2	78	北本市	おおみや	北本	東間7丁目
3	77	蓮田市	かすかべ	蓮田	東3丁目国道122号沿い
4	76	伊奈町	おおみや	伊奈	小針内宿1741-35 自宅玄関前
4	76	伊奈町	おおみや	伊奈	伊奈町小室3334-2 金子製作
6	74	さいたま市	浦和	赤山街道	浦和区高砂1-2-1-1907
7	73	八潮市	みぬま	八潮	エイトアリーナ入り口バス停付近
7	73	八潮市	みぬま	八潮	大曽根八潮南インター付近
7	73	川口市	協同	前川	前川東小前交差点

## (6) もっとも愚かな環境破壊である戦争につながる行為に 反対し、平和を守る

### ① 「もっとも愚かな環境破壊である戦争につながる行為に反対し、平和を守る」の概要

2009年度は、「組合員と共に、『憲法9条』を大切にしたい平和活動を広げる」ことを目標に進めてきました。

具体的には、「戦争につながる行為に反対し平和を守る活動規程」に基づき、下表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

環境目標	運用と活動	運用基準
組合員と共に、「憲法9条」を大切にしたい平和活動を広げる	平和をテーマとした学習会等の開催	・各事業所で年1回以上計画し、実行する
	戦争に反対し、平和を守る活動に取り組む	・各事業所の特色や部門の特色を生かして取り組む

### ② 取り組み事例

各事業所では、「戦争につながる行為に反対し平和を守る活動規程」に基づき、いろいろな工夫をして取り組んできましたが、以下は、その事例です。

#### ・「ケアセンターさきたま 平和行進に参加する」

ケアセンターさきたまでは、7月14日（火）の『平和行進』に当事業所から4名が参加をしました。

途中で商店街の方や市民の方々に声をかけられ、励まされながらの行進となりました。

行進後は平和の歌などを参加者で歌い、平和の企画や戦争展の紹介、行田原水協の紹介など、たくさんのお話を聞くことができました。

普段、あまり考えていなかったことを思い起こし、平和の大切さを実感しました。



#### ・「本部事務局 平和学習会を開催し、憲法問題について学ぶ」

7月23日（木）14時～15時に、本部MS事務局・エコリーダー会議が主催して、ふれあい会館第6会議室で、2009年度第1回平和学習会を開催しました。



テーマは、「日本国憲法の改正？」ということで、まず日本国憲法の概要についてビデオを鑑賞しました。その後パワーポイント、プロジェクターを使って、日本国憲法と自民党の新憲法草案との対比で、日本国憲法がどう変えられようとしているか、その中で平和がどのように脅かされようとしているのかを学びました。

本部職員10名が参加し、日本国憲法の改正問題について考え、だいたいの概要と憲法改正問題の重要性がわかったとの声も聞かれました。

☆今年度も特に戦争に反対し、平和を守る活動が多彩に取り組まれました！

・「所沢診療所 社保の日バザーに取り組む」

所沢診療所では、8月18日に「原水爆禁止世界大会報告会」と「社保の日バザー」に取り組みました。

午前中バザーには、所沢診療所地区全7支部がバザーを行ないました。お昼は、山口荒幡支部が社保カレーを販売し、50食以上が売れました。午後の第1部は原水禁世界大会参加者のTさん、Kさんの報告会。第2部は、富岡落語研究会3名の「落語のつどい」を行ないました。参加者は42人でした。「今回は、若い2人が長崎に行ってくれて、戦争体験を引き継ぐという意味から非常に嬉しく思う」「若い普通の人から見た報告がされてとても良かった。今後もぜひ一緒に活動しよう。」など感想が出されました。



・「熊谷生協病院 原水爆禁止世界大会への参加報告会を実施しました」



9月1日に熊谷生協病院の介護部会では、新卒介護職の方が原水禁世界大会長崎へ参加した報告会を行いました。

その参加報告を介護部会で行うことから、部門介護職間で平和の大切さを共有する平和学習ができました。

・「医療生協さいたま ニューヨークのNPT再検討会議に13名の代表を送る」

医療生協さいたまでは、5月にアメリカのニューヨークで開催されたNPT（核兵器不拡散条約）再検討会議に13名の代表を送りました。

代表団は、マディソン・スクエア・ガーデンの前やセントラルパーク周辺で、そろいのはっぴ姿で署名宣伝行動を行いました。署名用紙は英語版で、2日間で336筆が集まりました。

国連本部で開催されていた原爆展ものぞいてきましたが、日本の被爆者の体験を聞いたひとりのアメリカ人が、「これまで核兵器は必要と考えていたが、今日その考えが変わった」と話すのを耳にしました。

国連本部前のハマーショルド広場に積み上げられた。核兵器廃絶を求める署名は、6,901,037筆（内、医療生協さいたまで集めたのは33,362筆です）でした。

今回の会議では、すべての参加国が「核兵器なき世界」を達成するという目標を追求することに同意しました。最終文書に、具体的な行程表は盛り込まれなかったものの、世界の流れは確実に、核兵器廃絶に向かっています。



・「ケアセンターさきたま 千羽鶴を折り、平和を祈る」



ケアセンターさきたまでは、今年も行われる、『原水禁世界大会』に向けて、事業所の職員で『千羽鶴』を作り、参加される方にお渡ししました。（8月6日にお渡し済み）

お昼休みを利用したり、自宅にて作成しました。

千羽鶴に想いを込めながら、平和な世の中であるように祈りました。



医療生協さいたま 2009年度

# 環境報告書

発行：2010年8月31日

発行者：医療生協さいたま生活協同組合

〒333-0831

埼玉県川口市木曾呂 1317

TEL (048-294-6111)

編集：医療生協さいたまマネジメントシステム委員会